

平成28年度 博物館実習展アンケート分析結果に関する報告

平成28年度関西大学博物館実習展では、博物館実習履修者により、「大坂商人の世界」「お金の姿」「明治の装い」「上方の粋もの展—多様性が育んだ美—」の4つのテーマで展示を行った。本調査では、各展示及び実習展全体の評価について分析・検討を行っている。

【調査方法】

平成28年度関西大学実習展の来館者を対象に、会場である関西大学博物館第2展示室において、2016年12月4日から同年12月9日までの6日間実施した。

用紙の配布及び回収は展示室入口で行った。配布の際、来館者にアンケートへの協力をお願いした。回答してもらう来館者には、展示室入口のスペースに戻ってきてもらい回答してもらう形をとった。

【来館者の構成について】

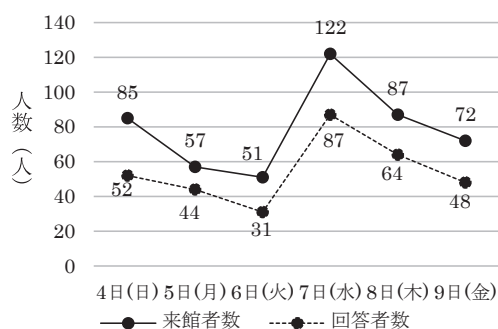


図1 来館者数及び回答者数の推移

総来館者数474名のうち、回答者は325名であり、約70%の来館者に回答してもらうことができた。

7日の来館者数の突出は、授業の一環で本

学学生が多く訪れたことによる。

性別の内訳は、男性130名、女性183名、無回答12名であった。

年齢についての回答では、「20代」と「10代」で半数以上を占めた。(図2)

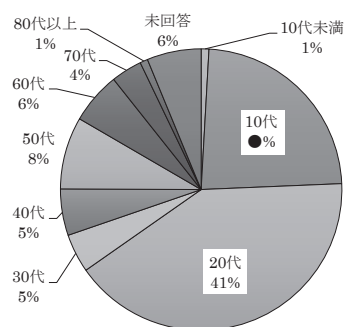


図2 回答者の年代別内訳 (325名)

住所の項目では、大阪府からの来館者は68%で、そのうち吹田市からの来館者は40%を占めた。それ以外では兵庫県からの来館者が一番多い結果となった。(図3)

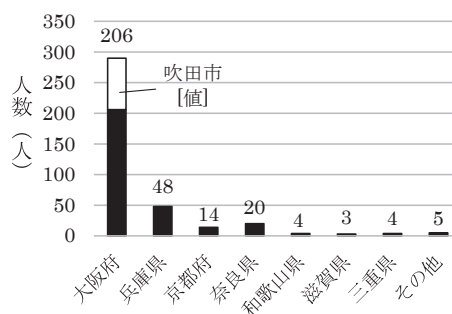


図3 回答者の住所別内訳 (306名)

回答者の所属内訳は、「本学学生」が5割以上、次いで「一般」の人数が25%を占めた。(図4)

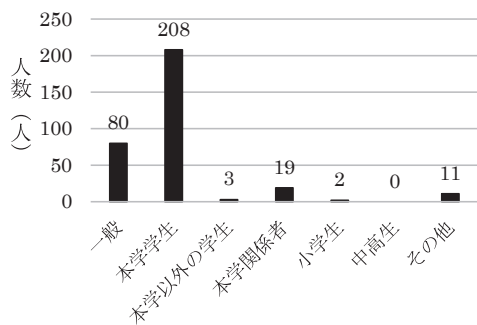


図4 回答者の所属内訳 (323名)

今回の実習展の認知経路は「授業」が約4割、「友人・知人から」が約3割で人伝えでの認知が多い。媒体による認知では約2割の「ポスター・広告」が最も多かった。(図5)

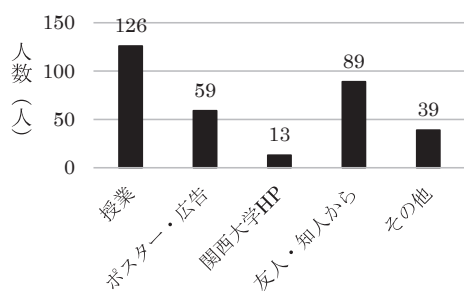


図5 認知別の内訳 (326名)

博物館・美術館等の利用頻度は、「年に1回」、「半年に1回」がほとんどを占め、「週に1回」と答えた人は1割にも満たなかった。(図6)

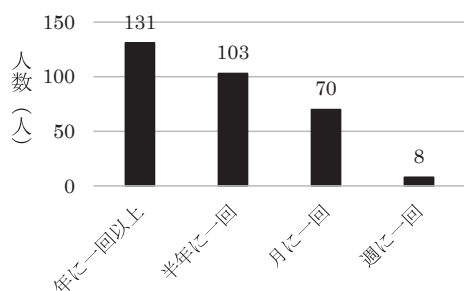


図6 博物館・美術館等の利用頻度別の内訳 (312名)

関西大学博物館への来館回数は、「2～4回」が最も多く、「初めて」が次に多かった。(図7)

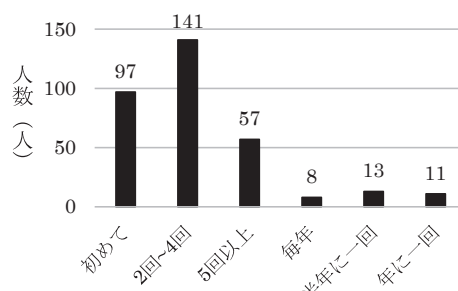


図7 来館回数別の内訳 (327名)

【考察】

28年度の実習展の来館者は、本学学生が最も多いことから必然的に年齢別と認知の項目でも「20代」、「授業」が一番多く回答されることとなった。また、所属の項目で「一般」と回答し、認知の項目で「その他(身内から)」と答える来館者が度々見られた。このことから、本学学生あるいはその学生からの伝達から知った来館者の存在が目立っていたといえる。

各班の調査では、表面に印刷されている「大坂商人の世界」は回答されていても裏面他の三つの展示への回答が一切されていない用紙も数枚見受けられた。裏面の記入に対する声掛けの意識を、実習生全員と共有できていなかったことによる結果だと感じられた。自由記述欄は長文、短文様々で、いずれかの班のコメントのみ書くものもあった。それとは別に欄外に全体的な展示への意見・感想が書かれていることもあった。今ある項目を削ることは難しいが、実習展全体に対する自由記述欄を設けるべきだったと感じた。

共通項目では回答者の答え方を見て、いくつかの不備を痛感した。まず選択肢の不足だ。博物館・美術館等の利用頻度の部分では、「行

かない」と書かれているものがあった。来館者はみな普段から博物館・美術館に行くという前提で考えていたことによる失敗だったと感じた。次に回答数への注意喚起だ。実習展の認知の項目で「ポスター・広告」、「その他」と複数回答しているアンケートがあった。今回の集計は複数回答を目的としていなかったため、「あてはまるもの一つに…」と表記し、はっきりさせる必要があった。回答者から、年齢の項目で「10代以下」、「10代」となっているために10歳の人がどちらにも該当してしまうことを具体的に指摘された。ここでは「10代未満」と訂正し、来館者を混乱させないようにすることを心掛けるべきだと感じた。

(平成28年度博物館実習展 アンケート班一同)

大坂商人の世界

【要約】

展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気について、全項目で平均4以上の評価が得られており、特に5の評価をつけてもらうことができていた。なかでも見やすさ、雰囲気の点で評価が高かった。一方で、2の評価が少ないながらも見られ、改善の余地が残っている。

アンケートの自由記述には、展示解説の姿勢、ペンライトの使用について意見をもらうことが多く、ほとんどが好評であり、楽しんでもらうことができたと思う。また、今回の展示ポスターでは千両箱を用いたので、本来の目玉である土蔵模型の印象が気になる場所であったが、土蔵模型の印象が残ったという方が群を抜いて多く、展示の意図を伝えることができたのではないかと考えられる。一方で、自由記述に他の班の展示内容について書かれている点が目立っており、アンケートにも工夫が必要であったことを感じた。

【方法】

今回の実習展全体の共通項目として展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気の4つの観点について5段階評価を求めた。班ごとの項目としては、特に印象に残った展示物を選択式で、展示についての意見・感想を自由記述で回答を求めた。

【結果】

[1] 共通質問項目について

- 項目 1. 展示の内容について 2. 展示の見やすさについて
3. 展示の解説について 4. 展示全体の雰囲気について
評価 5: とても良い 4: やや良い 3: 普通 2: やや悪い 1: 悪い

全体回答325人の内、本展示について無回答だったものを除いた。また、一部記入のなかったものについても同様に、除いて平均を算出した。

表1 観覧者による「大坂商人の世界」に対する評価（5段階評価）

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	記入なし	合計	平均値
内容	148人	142人	27人	0人	0人	2人	319人	4.38
見やすさ	163人	123人	27人	3人	0人	3人	319人	4.41
解説	148人	106人	57人	3人	0人	5人	319人	4.27
雰囲気	162人	118人	33人	0人	0人	6人	319人	4.41

[2] 班ごとの設問について

表2 「特に印象に残った展示物はどれですか。」に対する回答（複数回答可）

米切手	62人	藩札	1人
摂津名所図会	31人	瓢箪秤	2人
日本永代蔵	57人	算盤	1人
千両箱	68人	福笹	1人
帳場結界	44人	サイコロ	1人
土蔵模型	150人	福祿寿	1人

[3] 班ごとの自由記述欄の内容について

自由記述「展示をご覧になって大坂商人に興味を持っていただけただけでしょうか。また、展示についてのご意見・ご感想があればご自由にお書きください。」に対する回答の一部抜粋（全体の回答者数：115人）

- 米切手が証券として流通していて、偽造防止策が取られている点をととても興味深くみせていただきました。
- 各テーマがしっかり考えられています。来館者ともう少しコミュニケーションが取れるとなお良い。
- 換金のシステムを図式化してもらえるとわかりやすかったかも。
- こちらの展示は唯一図録が用意されていたので、とてもわかり易かった。「ペンライトで中をのぞいてみよう」と観覧者に興味を示す内容にしている点も良かった。
- 積極的に展示の説明をしてくださったので、より深く知ることができ面白かったです。ペンライトの位置をもう少し工夫されるとさらに良いかと思いました。
- 実習生の方々が、大変丁寧に説明してくださり、タイムスリップしたみたいはその時代に入り込んだ気持ちで見させていただきました。
- 七福神の版画がきれいでした。
- 現在にも残っている大坂の町の特徴を知ることができ良かった。
- 詳細な説明をしていただき、時代背景を含め大坂の文化の一端を知ることができました。特に土蔵模型や七福神などの展示物は当時の生活文化の様子が感じられ、とても興味深く思いました。
- 図録や資料目録があって良いと思いました。いろいろな視点から大坂商人に触れられていておもしろかったです。各章の関連や流れがもう少しパッと明るく目を引くようなパネルで示されれば、よりつながってよかったのかなという気もしました。
- 皆さん親切に説明いただき、大変わかりやすかったです
- 展示にストーリーがあった。
- 大坂の古地図などがあれば良かったです。
- スペースの限りはあるうが、もう少し深く掘り下げて。特に目新しい驚くほどの発見学習はな

かった。

- 当時を想像できる展示であったと思います。ストーリーも一貫していました。キャプションなどの紙による解説、特に項目ごとの概要などがあればさらに良かったと思います。
- 土蔵模型にライトを当ててみる展示が変わっていておもしろかったです。ただ、光線を当てて大丈夫かなと思いました。
- 大坂商人の道具として帳簿があればよかったと思う。展示は章がついていたが、図録にはついていない。目録も普通番号を付けるもので、図録のものをつけるものではないのでは。
- 解説員による解説に質問したが、答えが返ってこなかったので、研究が不十分に感じた。
- 土蔵模型のようなものが一般家庭にも多く置かれていたことに、当時の文化の高さを知ることができた。現在でいうところの神棚のようなものであろうか。
- 国語科教員を目指していて、授業での参考としてこの博物館を訪れました。日本永代蔵の原本があることが素晴らしいと思いました。
- 少し説明の文字が小さかったかもしれません。
- 大坂の経済活動の象徴として、船の展示解説があればより実感があつたかもしれないですね。
- 展示物を畳の上に置いてあつたのは良かったです。『撰津名所図会』の中に描かれている状況に関する展示解説もあればなお良いと思います。
- 撮影して展示したものも目録への記載が必要ではないでしょうか。展示物はどれも興味を引かれる内容だった。
- ペンライトを使用するなど工夫があり面白かったです。帳場は結界がされるほど神聖で、大切な場であることがよくわかりました。
- 昔から偽造されないための工夫がされていたのは、感心しました。
- 商人に関するものが、いろんな資料で紹介されていて、おもしろかった。資料数もちょうど良い。
- 展示の一部にどうして大坂商人と関わりがあるのかわかり辛いものがあった。(井原西鶴など)
- 模型の展示に工夫がされており、おもしろかったです。本の資料と立体的展示物のバランスのとれた良い展示だと感じました。
- 結界や千両箱を間近に見られてよかった。解説が非常に丁寧でした。
- 昔の様子が思い浮かぶ展示でした。熱心に解説されているのも良かったです。
- 米市場の盛り上がりがすごすぎるから、水をかけて静めていたという話がとても興味深かったです。楽しい解説ありがとうございました。
- 土蔵のインパクトがすごかった。ペンライトで中を見られるようにしていたのが良かった。そろばんが弾きにくそうな材質っぽく見えた。(習っていたので、現在のものと比べてみて)
- 実習生の方が、丁寧に口頭で解説してくださったので、展示物の内容を理解することができました。土蔵模型をペンライトで照らす演出が良かったです。4つの班の展示の中で一番良い展示だと思いました。

【考察】

本展示の共通質問項目については、平均4以上の評価が多く、概ね好評であったと思う。自由記述の内容も合わせてみていくと、一番評価の低かった展示解説には、積極的に展示解説ができていたという意見や、丁寧、親切という言葉が見受けられ、好印象であったことがわかる。一方で、展示解説に対して質問しても回答がなかったという指摘もあり、対応の不慣れ、勉強不足が背景にあると考えられる。

最も評価の高かった見やすさについては、キャプションの字が小さいという意見が少なからずあり、特に年配の方からの指摘が多かった。キャプションについて、文章の量が多すぎるという指摘もあったので、量を減らし、字の大きさを変えるべきであった。

同じく評価の高かった雰囲気や内容については、テーマがわかりやすい、ストーリーがあるという意見がみられ、本展示で伝えたかった大坂商人の精神文化を理解してもらうことができたのではないと思う。しかし、知識が豊富な方にとっては、全体的に内容の掘り下げが不十分な印象を与えることもあり、もっと展示内容を絞ってもよかったと考えられる。また、展示解説なしには全体のつながりが理解しにくく、おもしろみが伝わりにくい展示になってしまった。今回はスペースの関係上でできなかったが、各章の概要を用意しておくべきであった。加えて、各ケースでキャプションに違う色をつけるなどして、展示に変化を加えるとより良い展示になったと考えられる。

班ごとの設問で特に印象に残った展示物について回答を求めたところ、土蔵模型が群を抜いて多かったが、意外にも米切手も多く、展示解説の印象が強かったことがうかがえる。

自由記述には、ペンライトの使用について意見が多かった。工夫されている、おもしろいという意見がほとんどであり、好評であった。一方で、資料に光線を当てることに対する不安も見受けられ、一概に良かったとは言えないのかもしれない。

今回の博物館実習展において、当班は唯一図録・目録の配布を行ったが、その点がよかったという意見があった。しかし、展示した複写物が図録・目録に載っていない等の指摘を受けることが多く、展示・図録・目録の統一感がなかった点は反省しなければならない。

以上、「大坂商人の世界」の展示について、来館者の指摘をもとに述べてきたが、評価が良くても改善の余地が多々あることが明確であった。今回のテーマに沿って展示を行うのであれば、より多くの展示スペースが必要である。小規模な展示スペースでわかりやすく、内容の濃い展示するには、もっとテーマを絞るべきであったと考えられる。また、水運という大坂を扱う上での重要項目に触れられていない点も不十分であった。

(文14-684 松尾直哉)

お金の姿

【要約】

展示の内容、見やすさ、解説、雰囲気について尋ねたところ、おおむね4以上の回答を得られた。しかし2や1と答えた人も少なくなく、特に解説に関しては3以下の評価をつけた人が94人とほかの項目に比べて多かった。また自由記述欄では質問内容の回答のほか、展示に対する意見や感想をいただいた。「小さくて見づらい」「展示物が多すぎる」などの指摘を多くいただき、来館者に対する配慮が不十分であったことがわかる。

【方法】

全体の展示の共通項目として、「内容」「見やすさ」「解説」「雰囲気」について5段階での評価を求めた。また班の個別質問として「記念硬貨を買ったことがあるか」を選択形式で、「はい」と答えた来館者には「それはどのような硬貨か」を記述形式で尋ね、「今回の展示で印象に残った展示物はどれか。またその理由」を尋ねる設問を自由記述形式で設けた。

【結果】

〔1〕共通項目について

1. 展示の内容について
 2. 展示の見やすさについて
 3. 展示の解説について
 4. 展示全体の雰囲気について
- 5段階評価 5：とても良い 4：やや良い 3：普通 2：やや悪い 1：悪い

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値
内容	127人	127人	32人	10人	1人	297人	4.24
見やすさ	116人	106人	55人	20人	1人	298人	4.06
解説	98人	99人	76人	14人	4人	291人	3.94
雰囲気	124人	117人	44人	7人	2人	294人	4.17

〔2〕班個別設問について

「記念硬貨を買ったことがありますか」

はい	52人
いいえ	232人

「はいと答えた方にお聞きします。どんな記念硬貨を買いましたか」

- ・オリンピック記念
- ・都道府県別500円硬貨
- ・万博記念
- ・天皇御在位60年記念
- ・平成天皇御即位記念
- ・沖縄海洋博記念
- ・つくばエキスポ
- ・愛・地球博記念

- ・青函トンネル開通記念 ・瀬戸大橋開通記念 ・ワールドカップ ・南極探査記念
 - ・平成20年記念 ・花博記念
- オリンピック記念が一番多く、次いで、万博記念であった。

〔3〕自由記述欄の内容について

自由記述「今回の展示で印象に残ったものは何ですか。またその理由をお聞かせください」（一部抜粋） またこの項目では、班の展示全体に対する意見も多く見られた。

- ・秤量銀貨：現在のお金の形とは大きく形が異なるものがきちんと通貨として流通していたことに驚きました。
- ・職業婦人絵巻：絵の感じが好きだから。
- ・銭函。
- ・記念硬貨の展示が特に印象的です。豊富な展示に目を惹かれた。
- ・記念硬貨が印象に残った。いろいろな記念硬貨があることを知らなかったが、きれいに感じた。
- ・200円札。一時期使っていたのを思い出して懐かしくなった。
- ・昔使用していたお札や万博のチケットなどとても懐かしく見せていただきました。
- ・慶長丁銀。とても珍しいため。
- ・丁銀。解説してくれた学生がわかりやすくてよかった。
- ・大阪万博のスタンプや記念硬貨、明治時代の通帳が気になりました。そのようなものが残されているんだなあということが興味深かったです。
- ・万博の展示が興味深かった。
- ・正徳小判。よく借りられたものだと感心しました。
- ・民間製作の5円札。解説に力が入っているように感じたから。
- ・昭和64年の1円、5円、10円玉。とてもめずらしい、初めて見た。
- ・五輪の硬貨。表と裏のデザインがくっきり見えたため。また近代の硬貨は現在のものに近く、材質も書いてあり良かった。
- ・絵葉書。銭貨や紙幣の中に置かれていたので印象に残った。
- ・万博のパビリオンカードの実物を初めて見たので印象に残った。
- ・下に鏡を置いた小判。実習展でこの展示の仕方が見られるとは思わなかった。
- ・記念硬貨にさまざまな種類のものがあることが印象的だった。
- ・現代の紙幣。懐かしかったが、コレクター好み。
- ・これまでの昭和のお金と、現在のお金が比較できるのが良かった。
- ・小判。鏡で裏側も見れる工夫がされていたのもあって目が惹かれた。
- ・小判等。初めて見て美しさに驚いた。
- ・乾隆帝の展示が印象的。日本人以外の紙幣だったので。
- ・正徳小判。江戸時代に使われており、金なので非常に価値の高いものが見れたから。
- ・新渡戸稲造の5000円紙幣を久しぶりに見れて良かった。
- ・お金と経済史のパネル。

- 板垣退助の50銭やハト10銭は実物を持っているがボロボロだったため、状態の良いものを見ることができたので、とても印象に残った。
- 記念硬貨は存在は知っていたが本物を見るのは初めてだった。意外にもデザインが豊富で面白かった。
- 硬貨の大きさ、形の移ろいについて時代ごとの変化が面白い。デザインは展示では見づらかったが、調べてみたいと思った。
- 万博に関連するもの。こんなカードがあるとは知らなかったの。
- 戦後の民間のお札。
- 100円札、2000円札、500円札。昔はあったと聞いたことがあるが実物は見たことがないから。今は硬貨なのにお札だったと思うと不思議。
- 正徳小判。工夫された展示方法で裏面も見れたから。
- 記念硬貨。自分も少しほしくなった。
- 紙幣。本物を見るのは初めてだったから（夏目漱石以外）。
- アニバーサリーセット。古い絵葉書が意外に細かく美しく見られた。
- 新幹線の硬貨。同じ年に自分は50周年記念のキップを買ったが、あれも後に展示の1つに並ぶかも、とってしまったので。
- 正徳小判。スペースに余裕をもって展示していたから。
- 紙幣など。普段見れないようなものが多く見られたから。
- 記念硬貨。祖父が集めていたので。
- 硬貨の時代の変遷が面白いと思った。
- 不換紙幣は歴史の教科書でしか見たことがなかったので実物を見られてよかった。
- お金と経済史の年表を用いて、日本銀行券の歴史を紹介しているもの。
- 多種多様なお金が展示してあり、展示物の数が多く、実物があることでわかりやすく実感やサイズ感があって勉強になった。
- 現代でも使用されている2000円札。日常生活ではあまり見ることができないから。
- 記念硬貨は特に印象的。自宅に展示物と同じものがあり、とても興味深かった。
- 紙幣に興味を持っていたので、今回たくさん見ることができて満足。
- 昭和64年の一週間しか発行されなかったお金。
- 正徳小判。鏡を使用した展示方法が良かった。
- 100000円硬貨。こんなに高額の記念硬貨があるとは知らなかった。
- 紙幣の移り変わり。
- 日本銀行D券、1000円、5000円、2000円。少し前に使っていたお札がもう展示されるような歴史の一部なのかと感じたから。
- 万博のパビリオンカード、ANNIVERSARY COINSET。個人的に万博が好きなので、カードに興味があり、コインセットはせっかくの記念なのに劣化してしまう作りが残念という思いから。
- 正徳小判の裏面まで見れるように工夫されていたのが良かった。
- 日本万国博覧会の記念カード、コイン。記念カードの珍しい建物の写真を見ることができたから。

- 慶長丁銀。銀の貨幣を見たことがなかったから。
- 嘉慶通宝。江戸時代に清銭が使われていたことが非常に興味深く感じた。
- 資料等でしか見たことのない実物のお金が見れたこと。
- 記念硬貨。古い貨幣は何度も見たが記念硬貨は実物を見たことがなかったから。
- 正徳小判。本物を見るのは初めてだったから。
- 100円札。実物を見たことがないから。
- 昔のお札。現在のものより多くの種類があって驚いた。
- ゲルマン紙幣。実見したのはうれしかった。
- 万博記念硬貨が吹田と関連があってかつ面白い展示だと思った。
- 聖徳太子の絵柄のものを懐かしく思った。
- 万博関連。今もその余韻というものは現代に連続しているように思うので。
- 100000円硬貨。やはりインパクトがあって面白かった。解説の方に展示の苦労なども話してもらえてとても楽しかった。
- 100000円硬貨。そんな高価な硬貨があることに驚いた。
- 手書きで作成された紙幣。解説してくれたので。

○展示についての意見

- 鏡の工夫が良かった。
- 展示解説がたいへんわかりやすかった。
- 紙幣がずらっと並んでいて見ごたえがあった。
- 硬貨は小さく、年号や模様が見にくいので、メインのものだけでも拡大鏡があればいいと思う。
- のりパネの切り口が少し汚かった。
- 硬貨の実物があったのが良かったが少し見にくかった。
- 紙幣に描かれている人物名をどこかに書いておいてほしかった。
- “富の象徴 文化の象徴”というキャッチコピーも非常に印象に残り素晴らしいと思う。
- ポスターのデザインが印象深かった。
- 企画の概要と目的を最初に示しておくにより興味を持てるのではないか。
- 置かれている年代が順番ではなく少しわかりづらかった。
- 出来事が羅列してあるだけで、実感がわかなかった。
- お金は当時の権力者の動向に左右されるから、もっと政治・社会背景の説明も加えてほしかった。
- 全体的に展示物を並べただけで、解説等工夫が感じられなかった。
- もう少し日本の古い紙幣がわかれば、もっと良い展示になると思う。
- 資料の番号が小さい、また説明が多すぎたかも。
- 展示物が多すぎて目移りする。もう少し絞った方がいい。
- 貨幣を見るためにかがむ必要があったので、高さを考える必要があると感じた。
- かなりごちゃごちゃだったので整理すべき。

- 年表がとても詳しかったが、細かすぎる。関係のある部分だけ要点を絞って作成した方がわかりやすかったのではないか。また展示スペースに展示内容の概要、目的、まとめを示すものがあつた方がわかりやすかつたように思う。

【考察】

共通項目についておおむね4以上とある程度高い評価を得られたと考える。しかし、不十分な点も多く、特に展示解説については3.94と低く一層の改善が必要である。

班別質問について、記念硬貨を買つたことがあるかに関しては、買ったことがあると答えた人が52人であつた。「はい」と答えた人のほとんどは50代以上であつた。ただやはり「いいえ」と答えた人が圧倒的に多く、「こんなにあるとは知らなかつた」「実物を初めて見た」という意見も見られ、一般にまだ馴染みがないものであると感じた。しかし今回の展示で「興味をもつた」「今度買つてみようと思う」との意見もあり、コレクションとしてのお金の姿を示すことができたと思われる。

印象に残つた展示物は何かという質問については、大方予想通りの正徳小判と記念硬貨、ひいては万博コーナーであつた。小判については、「鏡を用いて裏面を見せる工夫が良かった」という意見を多くいただいた。この展示方法は、どうすれば見やすいかを班で話し合つて決めたものであり、このことを踏まえると、この展示方法は妥当であつたと考える。また万博関連と回答した人が多く、特に万博のパピリオンカードが印象に残つたという意見が多かつた。

展示全体について、「全体的に小さく見えづらい」「展示物が多すぎる」等の指摘をいただき、展示にもつと工夫を施すべきであつた。また「肖像画の人物名を書いてほしかつた」との意見も多く、キャプションに記載すべきであつたと考える。こうした指摘・意見から、来館者に対する配慮が行き届いていなかったことがわかる。全体的に見ても2、1の評価が多く、こうした評価の一因として、準備不足が挙げられると考える。私たちが考えていたより3倍以上の時間がかかり、直前まで慌てて作業という状況であつた。もつと余裕を持つて取り組めるように計画すべきであつたと痛感した。

(文14-501 中村菜緒子)

明治の装い

【要約】

展示の内容や見やすさ、雰囲気については4点以上の評価を多く得ることができた。しかし、解説の項目では1点の評価が入っていることもあり、低評価が気になるところもあった。自由記述欄では展示の華やかさに対する好ましいコメントが多く、ハンズオンのすごろくも大変好評であった。反面、キャプションやパネルについての改善することのできる点の指摘があった。

【方法】

全体の共通項目として展示内容、見やすさ、解説、雰囲気について5段階での評価を求め、その他に班別で選択型の質問と自由記述の質問を用意した。

【結果】

[1] 共通項目について

- 1、展示内容について 2、展示の見やすさについて 3、展示の解説について
4、展示全体の雰囲気について
点数として 5：とても良い 4：良い 3：普通 2：やや悪い 1：悪い

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	合計	平均値
内容	131人	134人	27人	0人	0人	292人	4.4
見やすさ	145人	119人	29人	1人	0人	294人	4.4
解説	114人	123人	49人	1人	1人	288人	4.2
雰囲気	148人	118人	28人	0人	0人	294人	4.4

[2] 班別自由記述欄の内容

○展示について

- ・鹿鳴館時代を経て男性と女性の服装が一度に変わったと思っていましたが、意外に変化には差があったということがよくわかりました。
- ・男女とわけて良く展示されている。
- ・4つの中で1番興味を引くテーマで見ていて面白かった。時代設定など関大と絡めた内容で、関大実習展ならでは感があった。
- ・着物とかんざしがかわいかった。
- ・着物きれいでした。平面のものだけでなく立体物も多くて見ごたえがあった。
- ・昔のものが現在とても新しく斬新さを感じます。
- ・古いものに触れられてしばし楽しいひと時でした。

- むかしのひとつで結構しゃれた人が多いのだと感じました。
- 洋装の色合いなどで明治の華やかさがあってよかった。
- おおきく目を引く展示品が多く、男性女性の対比がされていたので、とても見やすかったです。すごろくのハンズオンもとてもよかったです。パネルもふきだしがついていて面白かったです。
- 女性の洋装もみたかった。
- 昔の服を見ることができて珍しかった。
- 礼服、とんびマントはなつかしかった。山高帽、とんびという言葉も両親が今も使っている。
- パッと目を引く展示物がいくつかあり、見た目にも華やかでした。
- えんぴ服が最初にあったのがとても驚きました。一般の服ってどれだったのでしょうか。
- 立体物、絵画、年表と大変見やすい展示でした。番号が振られていたのもとてもよかったです。すごろくも印象にのこりました。項目ごとの説明などがあれば実によかったと感じます。
- ケープコートや着物などデザインがかわいいなと思いました。
- もっと見ていたいと思える展示でした。
- メインの展示がわかりやすく展示されていてよかった。また、わかりやすい歴史年表もおおきいもので非常に見やすかった。
- 当時の洋装について知れてよかったです。和と洋のつかいわけが日本人は上手だなとおもいました。
- 明治の街を描いた絵などでよく見られる帽子を直接見られたのはよかった。
- 西洋風の人と和装の人が混在しておもしろかった。そして当時の女性の姿が多くみられてよかったです。
- 今まで見たことのないものが多かった。
- 親の時代の着物でとてもなつかしく見せていただきました。
- すごろくが人の生活と衣服の関係を知らぬのにとてもわかりやすかった。
- 洋装と和装、両方あるのがよかった。
- おもしろかったです。このような明治の展示をしているところを見たことがなかったので非常に参考になりました。
- 展示物が単調な感じを受ける。
- 関大創立者の洋装の保存が良くてびっくりした。
- とてもよかったです。大変見やすく、見ていて面白かったです。
- 個人的にとんびコートが今でも着られるくらいおしゃれだったので好きです。
- 欧風化してゆく中にも和装が根付いていた。のちの時代にも連綿と続いたのが印象的でした。
- 杖まで展示してあって驚いた。
- いろいろなところから集められており見ていて楽しい。
- 服が何着もあり、楽しめた。男女で分けているのがわかりやすくてよかった。
- 展示の最初に関大の創立者の大礼服というインパクトのある展示が面白かったです。所属されている大学との関連がある展示ですばらしいとおもいます。すごろく楽しかった。
- 視覚からの印象が強く、どの展示よりも見ていて楽しかったです。
- すごろくが実際に遊べて楽しかったですし、絵も細かいところまで見られて面白かったです。

- 男性女性にわかれて展示がされており、わかりやすい展示だと思いました。
- 大礼服の金の刺しゅうの柄や密度が役職によって違うというのがおもしろかったです。実際に展示物に触れられたこともよかったです。
- まさか生で明治時代の衣装を見られるとは思わなかった。
- 展示品が少ない。
- 4つの班のなかで立体物が多かったように思います。展示の仕方、照明の付け方ともに工夫されていたように思います。
- 思ったよりも金色が派手な服が印象に残りました。
- とんびコートがおしゃれで着てみたくなりました。
- 世界史の教科書などでほんやりと見たことがあるものを、実際に目の前で見られてよかったと思います。すごろくがとてもかわいいです。

○パネル及びキャプションについて

- 4つの展示の中で一番迫力があつた。文明開化の絵画に出てくる人物に吹き出しをつけているところもよかつたし、面白味があつた。
- キャプションの文字が小さい気がする。
- 解説の文体にもう少し配慮が必要だと感じました。
- 途中おいてあつた年表のパネルが情報量もちょうどよく見やすかつたです。
- 絵巻で見るべき箇所が拡大、コメント付きだつたのがよかつたです。
- 男子や女子がわかれていてという表示が奥のほうにあつたので、手前のほうにあればなと思ひました。
- 男女で展示構成をわけていたのととてもわかりやすくてよかつたです。すごろくのゲームが印象的でした。
- 最後のくし等についてキャプションがないのはなぜだつたのか。
- イラストによるコメントがよかつた。シンプルにすっきりとしていて見やすかつた。
- 「男性の装い」「女性の装い」のパネルが奥にあり、矢印が反対を向いてるので、少し順路が混乱した印象です。
- 壁にある男性の装いなどが見逃してしまひそうになつたのをもう少し位置調整してもいいかなとおもひました。パネルなどよく凝られたデザインでよかつた。
- 漫画のようなふきだしつきのパネルがよかつたです。
- 展示物だけでなくパネルもつかつていて見やすかつた。
- プロのような注釈板だつた。
- パネルの内容が濃かつたです。実習生の説明が詳細でより理解が深まつた。
- 解説が詳しくておもしろかつた。

○その他指摘等

- キャプションの誤字を訂正して解説してくれてよかつた。
- 町人、侍、商人、農民からの明治に移つた装いの違いなどがあればもっとよかつた。

- ポスターの白く細い文字が背景と被り、見づらく感じた。
- 明治の雰囲気は素人でも知っているのもう少し踏み込んだことも知りたかった。
- 女性のドレス姿の展示は実物を見てみたかったです。あと、裁縫教科書とおりに作ったものや、その過程を実際やってみても面白そうだなと思いました。
- 「お金の姿」と同様に最初に展示内容とねらいにふれておけばより良いものになったとおもいます。
- 男女での洋装の違いについて、丁寧に教えていただきありがとうございました。
- 楽しくみさせていただきました。個人的には「断髪をめぐり、訴訟や離婚が発生した」という点が気になりました。どのような経緯で裁判が行われたのか興味がありますね。
- 着物の典故をきかせていただき、参考になりました。
- 小袖は上部が暗いが、天井がひくいから仕方ないかな。
- 来館者に「説明いたしましょうか」という声かけが必要かと思われます（特に実習展の趣旨からも）。
- 展示のスペースがいい雰囲気だった。

【考察】

アンケートをもとに、今回の展示は好評だったと感じる。共通項目では平均値から見ても4点以上を獲得できた。しかし、多くの方が解説だけ評価を一、二段階下げる傾向が強かった。

自由記述では、着物や大礼服等展示品の華やかさについて多くのコメントを頂けた。大きな展示品もあったために視覚的に印象付けられ高評価に繋がったと考えられる。また、ご高齢の来館者からは「懐かしさを感じる」と、身近に感じさせるような展示にすることができた。双六のハンズオン展示も他班との差別化を図ることができ、「面白い」という言葉が寄せられた。パネルのイラスト、吹き出しについても良しとする感想があり、来館者の展示の理解に繋がったように感じられた。

一方で、パネルの誤字、解説の文章の指摘（文字の小ささ、文体等）といった反省させられるコメントもいくつか見られた。解説が低評価となった結果はここにあると考えられる。

（文14-592 平尾菜々）

上方の粹もの展 ― 多様性が育んだ美 ―

【要約】

5段階評価においては、展示の内容、見やすさについては概ね高い評価をいただいたが、解説については二つの項目に比べて低い評価となった。自由記述においては、作品に対する好意的なコメントが多くみられた一方で、キャプションや解説の不備など指摘の声も多数いただいた。

【方法】

全体の共通項目として展示の内容、見やすさ、解説の各項目について5段階での評価を求めた。その他に班別の質問として、上方の日本画の多様性を感じられたか否かを問う質問と、気になった動物や意見・感想などを問う自由記述の質問を用意した。

【結果】

[1] 共通項目について

点数…5 = とても良い、4 = やや良い、3 = 普通、2 = やや悪い、1 = 悪い
なお、各項目の合計および算出した平均値には、無回答を含まない。

質問 \ 点数	5	4	3	2	1	無回答	合計	平均値
内容	115人	99人	23人	3人	0人	34人	240	4.36
見やすさ	131人	82人	25人	2人	0人	34人	240	4.43
解説	96人	88人	43人	8人	0人	39人	235	4.16

[2] 班別項目について

「上方（京・大坂）の日本画の多様性を感じ取れましたか。」という問いに対して、はい・いいえの二つの選択肢を用意した。

はい	いいえ	無回答
209人	21人	43人

[3] 自由記述項目について

「気になった動物はありましたか。」という問いに対しては、以下のような結果となった。
なお、複数回答も見られたため、ここでの単位は票とする。

鹿	犬	虎	猿	狐	鳥	鯉	鷹	鶏	鶴	鴨	雉	蝙蝠
34	33	20	19	17	14	4	3	3	3	2	2	1

意見・感想については、展示の仕方や解説、作品についての好意的な声、あるいは指摘の声が主であった。以下、一部を抜粋し掲載する。

- 展示解説がとても分かりやすかった。
- 日本画に触れる機会がないので今回見れて良かった。
- 実際の虎よりも表情があるところがよいと思った。
- 鹿の掛け軸を見ていたら、鹿、コウモリ、霊芝について3回生のスタッフが詳しく説明してくれてとてもよかった。観ているときにあのように話しかけてくれるとこちらとしてもうれしい。
- (三正子犬図について) すごくかわいらしい絵で、日本の犬の絵はシーサーみたいなものをイメージしていたので驚いた。
- 大坂画壇の有名な絵を関大図書館は多く持っているのだなと思った。
- 虎と鳥の画の筆の使われ方に感動した。
- 展示スペースが限られている中、たくさんの日本画を観られて良かった。
- 描いた方々の思いが読み取れるような素敵な解説と展示の仕方、素晴らしかった。
- 画家によってタッチや作風の違いが大変興味深かった。
- ユーモラスな雰囲気、洒脱さ、そうしたものを全体の展示より感ずることができた。
- なぜこれらの画が選ばれたのかももう少しわかりやすく関連付けられていればよかった。
- 鹿のつのと虎の目が愛らしかった。
- 多様性は感じられたが、他地域と比べてどうなのかという視点があれば、もっとわかりやすいのではないかと感じた。
- 動物や鳥などを今よりも身近に感じていたみたいで時代を感じる。
- 江戸や京都の絵師の派閥や系統などもあればもっと良かった。
- テーマと展示のつながりが今一つであった。
- 大坂画壇の見取り図があればよかった。
- 展示数がちょうどよかった。日本画が好きなので楽しみながら見ることができた。質問にも丁寧に答えていて、深く楽しめた。
- 少し掛け軸の間隔が狭かった気がする。
- 解説が欲しい点に触れられていて、説明文がよかった。
- 様々なパターンがあって飽きないものであった。
- 今年は広いスペースで驚いた。
- すべての展示物に解説文があり、作品の背景がとても分かりやすかった。
- 虎の画が二種あり比較ができてよかった。
- 子犬が軸物で描かれているのはあまり見たことがなかったので興味深かった。
- 「粋」に含まれる庶民文化や色気は関係なく、タイトルと内容がかみ合っていないように見える。
- 解説文のフォントが細くて見づらい。文字を大きくしてほしい。ポイントは統一した方がよい。
- 多種多様な動物の展示で楽しませてくれた。
- 現代の感覚ではなく、当時がどのような状況にあるかということも念頭に置きながら見るべき

だなと感じた。

- 参考展示と重なり少し見づらかった。どこでわかれているか不明確。
- 解説文が下に置かれているので、上下を何度も見なくてはならず疲れた。
- 絵の知識があまりなく、絵の雰囲気ではか多様性を感じることができなかった。
- 相関図など、作家の関係などを図にするとわかりやすいのではないかと思った。
- 難しい漢字にはふりがなを打ってくれるとありがたい。
- きつねのよめいりが見られてよかった。
- 各作品の説明文にナンバリングをした方がよい。
- 晩秋の今、鶉の声が聞こえるような気がした。昔の人もそんな感じだったのだろうか。
- 1つの動物に絞って展示しても面白いだろかなと思った。
- 哺乳類のおでこの形が特徴的で印象に残った。額はあんなに狭かったのだろうか。
- きつねのよめいりの解説を聞き、幻想的な雰囲気を出すための技法など面白いと思った。
- 全体的に見ていて楽しかったが、ただ並べているだけという印象を持った。
- 日本画といえば強い、迫力ある動物が描かれるというイメージを持っていたので三疋子犬図は印象的だった。
- 虎を描く際に猫をモデルにしていたにもかかわらず、うまく虎を表現していてすごいと思った。
- のぞき台が離れたところにあつたので、もう少し近いところであれば見やすいと思った。
- 一つ一つの展示物が大きいもので、展示の仕方や解説パネルに工夫がされていたように思える。
- 写実的なものもあれば、アニメのようなタッチの画もあり、多様性を感じられた。
- 動物をモチーフにしたものは心和む。
- 猿が細い線の集合で描かれ、日本人の繊細さが感じられた。
- 犬が可愛かった。よく商品とコラボしているのを見かける。
- 同じ日本画でも作者によって全く違った味になるということがよく分かる内容だった。
- 前に来た時には見たことのない展示があり楽しかった。

【考察】

掛け軸を中心とした日本画の世界に入り込んでほしいという一心で、あえて情報の少ない展示をしたが、反対に来館者にとっては説明不足となってしまった。キャプションについても細文字のフォントを使用し、字の大きさも統一されておらず見づらい点を指摘された。この2点が5段階評価における展示の解説についての評価を下げる大きな原因となったのではないかと感じた。また、壁面の展示を端まで見てからスタート地点付近ののぞき台に戻るといふ、来館者にとっては不自然な動線を設定してしまったことが、結果として鑑賞しづらくなってしまったことも大きな反省である。いずれにせよ、来館者の目線で展示を創るという意識が欠如していたと痛感している。

他方、多様性を感じられたかという質問には9割の来館者がはいと答え、またきつねのよめいりの巻をはじめ、見たことのない画を見ることができてよかった、学生の口頭での解説がわかりやすかったという声も多数いただき、作品を通じて来館者を概ね満足させることができたのではないかと考えられる。

来館者が気になった動物は得票順に鹿、犬、虎と続いた。いずれも女性からの得票が多くみられたが、それらの動物がかわいらしく描かれていることが人気の理由であると推測される。

(社14-1563 木村駿汰)